

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新居浜市立浮島小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0871

愛媛県新居浜市八幡2丁目2番65号

E-mail ukie-ad@esnet.ed.jp

Website http://ukijima-e.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 66名 女子 56名 合計 122名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

「共に生きる」をテーマに、「環境」「人権」「防災」の3本柱でESDの活動に取り組んだ。

### 1 環境

(ねらい)

- ・学校や地域の公共施設や自然環境の清掃・美化活動などの体験を通して、人々とかわり、地域を大切に思う心を育てる。
- ・身近な環境から課題を見つけ、調査や体験活動を通して理解を深め、自分たちにできることを見つけて取り組む。

(活動の実際)

- ・近隣にある浮島海岸へ行き、キジハタの稚魚の放流を行った。
- ・一人一鉢活動や地域と連携した栽培活動(芝桜植え)を行い、全校で季節の花を育てた。また海岸の美化を呼びかける標語を作成し、公民館と連携をしながら、標語が書かれた看板を作成して設置をした
- ・地域に出向いて清掃活動を行ったり、花のプランターを設置したりする「きらきら活動」を行った。また海岸の美化を呼びかける標語を作成し、公民館と連携をしながら、標語が書かれた看板を作成して設置をした。

## 2 人権

(ねらい)

- ・縦割り班活動や全校集会活動を通して仲間意識の深化を図るとともに、コミュニケーション能力を育てる。
- ・平和学習やなかま集会などを通して、命の大切さや人権について学び、自尊感情を高め、自分も友達も大切にする心情を育てる。

(活動の実際)

- ・縦割り班活動として、運動会での浮小リレー、縦割り班給食、縦割り班での遊びや長縄跳びを行った。
- ・なかま集会では、浮小なかま宣言や学級旗の発表、人権劇を見て学級ごとに話し合う活動を行い、友達を大切にする気持ちを高めた。
- ・新居浜特別支援学校川西分校の児童との交流を行い、社会性や豊かな人間性を育んだ。

## 3 防災

(ねらい)

- ・地震・津波・火災の発生時に、速やかに安全に避難できる能力や態度を養い、その場に応じた行動が実践できるようにする。
- ・地震・津波・火災の災害について知り、自分たちにできることを考え、実践できるようにする。

(活動の実際)

- ・発生場所や時間帯、内容等様々な状況を設定した避難訓練を実施した。
- ・防災参観日では、公民館、消防団等地域の関係機関と協力して、地域ぐるみで防災訓練を実施した。
- ・特別支援学級では、津波を想定した避難訓練で、近隣の高津小学校まで避難する訓練を行い、防災学習を通じて他校との交流を図った。



① の写真 (キャプション)



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none"><li>● せんそうってなんだったの? (2011年、学研教育出版)</li><li>● 絵で読む広島原爆 (2007年、福音館書店)</li><li>● 災害・防災図鑑 (2013年、文溪堂)</li><li>● モグラはかせの地震たんけん (2009年、ポプラ社)</li><li>● ズバッと解決! 防災のギモン (新居浜市パンフレット)</li></ul>
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校行事や各教科、総合的な学習の時間、特別活動の教育課程に位置付け、活動に取り組んでいる。全学年で「ESDカレンダー」（年間指導計画）を作成し、年間を通じて計画的に実践している。学期ごとに実践を振り返り、校内研修で共通理解を図るとともに、年度末に見直しを行い、次年度の計画を立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全学年で「ESDカレンダー」（年間指導計画）を作成し、教育課程に位置付けるとともに、実践、評価、見直しのPDCAサイクルを確立し、校内研修で共通理解を図っている。また、教職員の負担を軽減し、継続して行うために外部団体との連携を積極的に図っている。担当者が変わっても継続して行えるように、引継ぎを確実にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価は、学期末のアンケートによる自己評価と公開した活動ごとに感想や意見を記入してもらった形での外部評価を行っている。成果としては、公民館等関係諸機関と連携して、地域の人々との交流を深めながら、環境学習や防災学習を深め、地域を大切にすることを育てることができたことが挙げられた。課題としては、新しく取り入れた活動の内容や方法の改善、継続について挙げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校ホームページにESDコーナーを設置し、随時内容を発信している。他に学校便りでもESDの記事を取り上げて発信している。校区文化祭では6年生が学習成果物を掲示して地域への発信を行っているほか、校内では学校図書館や掲示板にESDコーナーを設けており、継続して活動内容を発信している。ESDが家庭や地域に浸透しつつあり、活動の感想を地域関係者から聞くことが多くなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

公民館を中心として地域と協働・交流を図っている。例えば、防災訓練では、公民館を中心として、自治会、消防団、見守り隊、PTA、おやじの会等といった各種団体が協働して防災参観日という形で実施できた。海岸清掃や標語看板設置、公共施設の清掃、栽培活動等の地域の環境美化活動でも同様に行っている。地域以外の団体としては、環境学習において、愛媛県総合科学博物館や企業(住友化学)の協力を得て理科の学習を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

近隣の5つの小学校(ユネスコスクール)が集まり、人権座談会を行い、楽しい学校生活にするために行っている取組やいじめや差別をなくすための活動について発表したり、話し合ったりした。また、特別支援学級では近隣の高津小学校(ユネスコスクール)への津波の際の避難訓練を継続して行っており、合同で防災学習を行っている。他に、市内のESDフェスティバルを通じて他校の実践を知り、交流を図っている。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

テーマが「共に生きる」であり、ESDの活動を通じて、人とのつながりが強化できている。環境学習では地域の環境を大切にする活動を、地域と協働しながら行い、地域とのつながりを強くした。人権学習では、児童一人一人が、互いに認め合い、支え合いながら活動することができ、児童同士のつながりを強くした。防災学習では児童、保護者、地域の人が合同で防災訓練を行い、互いのつながりを深めることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「共に生きる」を活動テーマとして、引き続き、「環境」「人権」「防災」を3本柱に取り組んでいく。「環境」では、海とのかかわりを中心とした海岸清掃や標語看板設置の活動、地域の環境美化のための栽培活動等に取り組む。「人権」では、異学年児童の交流を図る縦割り班活動や通常学級と特別支援学級（学校）との交流活動を行う。防災では、避難訓練の充実を図るとともに、地域と合同の防災訓練で新たに炊き出し訓練や起震車による体験等を行う予定である。